


人を、想う力。街を、想う力。



街の力を、
地球の力に。
三菱地所グループ



2021年1月21日

報道関係各位

三菱地所株式会社

丸の内エリアを中心に 19 棟の全電力を再生可能エネルギー由来に ～CO₂約 18 万トン／年を削減、入居企業も含めて RE100 に対応～

三菱地所株式会社は、2021年度より、丸ビルや新丸ビルなど丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）の18棟及び横浜ランドマークタワーの計19棟（延床面積計約250万㎡）において、全電力を再生可能エネルギー由来（以下、再エネ電力）とします。これによるCO₂削減量は年間約18万トンを見込んでいます。尚、丸の内エリアにおけるCO₂削減量は年間約16万トンで、当社所有ビルCO₂排出量の約8割に相当します。

今回導入する再エネ電力は、「生グリーン電力」及び「トラッキング付FIT非化石証書」を併用して「RE100^{※1}」対応としており、且つビルで使用する電力量の全量であるため、対象ビルの入居企業は自社で再エネ電力を利用していると認められます。

本件は、三菱地所グループが長期経営計画2030で掲げた「三菱地所グループの Sustainable Development Goals 2030」の重要テーマの一つである「Environment：気候変動や環境課題に積極的に取り組む持続可能なまちづくり」に関する取り組みで、CO₂削減目標（2017年度比で2030年までに35%削減、2050年までに87%削減（SBT^{※2}認定））を定めております。また、「RE100」参加（2020年1月）にあわせて策定した再エネ電力比率（2030年までに25%、2050年までに100%）については約30%となる見込みであり、2030年までの中間目標を前倒しで達成する予定です。

三菱地所グループでは、サステナブルな社会の実現に向けて、時代が抱える社会課題への解決策を提供するため、2022年度以降、その他ビルについても再エネ電力の導入を積極的に進めていきます。特に、丸の内エリアにおける当社所有ビルで使用する電力については、2022年度には全てのビルにおいて再エネ電力とする予定です。



■再エネ電力への切替について

切替時期 2021 年度

対象ビル 計 19 棟（延床面積計約 250 万㎡）

丸の内ビル、新丸の内ビル、丸の内パークビル、三菱 UFJ 信託銀行本店ビル、丸の内永楽ビル、東京ビル、丸の内オアゾ A 街区、三菱ビル、丸の内二丁目ビル、丸の内仲通りビル、大手町ビル、大手町パークビル、大手門タワー・ENEOS ビル、大手町フィナンシャルシティ グランキューブ、丸の内二重橋ビル、新東京ビル、国際ビル、新国際ビル、横浜ランドマークタワー

切替方法 ①生グリーン電力

風力、太陽光、バイオマスなど再生可能エネルギーにより発電され、一般送電網を通じて需要家に託送される電力のこと。

②トラッキング付 FIT 非化石証書

FIT 非化石証書とは固定価格買取制度（FIT）対象の再生可能エネルギー電源の電気に対する証書のことです。トラッキング付非化石証書は更に環境価値の由来となった再生可能エネルギー電源を明らかにした（追跡・トラッキングした）もの。RE100 加盟企業の目標達成手法に活用できる。

CO₂削減量 年間約 18 万トン（想定）

<内訳>

丸の内エリア（18 棟）：約 16 万トン ※丸の内エリアの当社所有ビル CO₂排出量の約 8 割に相当
横浜ランドマークタワー：約 2 万トン

電力会社 ENEOS 株式会社、ダイヤモンドパワー株式会社、東京ガス株式会社、東京電力エナジーパートナー株式会社、日鉄エンジニアリング株式会社、（五十音順）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



▲今回の取り組みに関連する SDGs 目標

【注釈】

※1 企業が事業で使用する電気を 100%再生可能エネルギーとすることにコミットする協働イニシアチブ。企業が結集することで、政策立案者および投資家に対して、需要家からエネルギー移行を加速させるためのシグナルを送ることを意図する。日本では、「日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）」が RE100 の公式地域パートナーとして、日本企業の参加と活動を支援する。

詳細：<http://www.there100.org/>

※2 産業革命時期比の世界の気温上昇を「2℃未満」に抑えるため、企業に対して科学的な知見と整合した削減目標を設定するよう求める環境イニシアチブ。

○丸の内エリアのまちづくりコンセプト：「丸の内 Re デザイン」



丸の内
Re デザイン

三菱地所は、2020 年以降の丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）におけるまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ[※]」と位置付け、“人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台”を創造していきます。「丸の内 Re デザイン」はその実現に向け、まちづくりのあり方から変えていくコンセプトワードです。

※始動リリース：https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf